

ALP・LD 検査方法変更 再度のお知らせ

(ALP の基準範囲を大幅に変更します)

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

日本国内における ALP および LD 測定は、日本臨床化学会(JSCC)が提唱する JSCC 標準化対応法(以下 JSCC 法)が採用されていますが、アイソザイムの特性により測定値に影響があることが知られていました。また、国際的には国際化学連合(IFCC)の基準測定方法(以下 IFCC 法)が広く用いられています。

この度、日本臨床化学会から 2021 年 4 月までに、現行の「JSCC 法」から「IFCC 法」に切り替えを行うよう通知があり、当センターも準拠し IFCC 法に変更を致します。

記

■実施日 令和3年3月29日(月)ご依頼分より

* 新法実施の3月29日(月)からは、29日以前の検体で追加依頼された場合、新法の IFCC 法で検査しご報告いたしますので、ご留意下さい。

■変更による利点

IFCC 法への変更後は、小腸型アイソザイムの測り込みが小さく、血液型 B、O 型の一部でみられていた食事の影響による偽高値が解消され、肝・骨疾患の臨床的意義が向上します。

■変更内容

総合検査案内ページ	項目コード	検査項目	変更内容	新	現
88	0024-02	ALP (アルカリホスファターゼ)	検査方法	IFCC法	JSCC標準化対応法
			基準範囲 (単位)	※ 38~113 (U/L)	106~322 (U/L)
	0021-02	LD (LDH)	検査方法	IFCC法	JSCC標準化対応法
			基準範囲 (単位)	変更なし	124~222 (U/L)

※ ALPは検査方法に伴い基準範囲が変更となり、現在の約1/3程度の数値になります。